平成２３年度第１回中原区区民会議運営部会会議摘録

○日　時　平成２３年７月５日（火）　午後３時～５時
○場　所　中原区役所５階５０５会議室
○出席者　板倉委員、川連委員、杉野委員、鈴木委員、松本委員、
（事務局）石澤副区長、企画課：綱島課長、服部課長補佐、宮田担当係長、園田担当係長、橋本職員、深谷職員
（行政関係者）こども支援室：豆白室長
（委託契約業者）石塚計画デザイン事務所
○欠席者　・房委員
○傍　聴　なし
○報　道　なし
○次　第
１　開会
２　会議録確認委員の選任
⇒板倉委員を選任
３　議題
（１）課題調査部会からの報告
（２）本会議への提案に向けた検討
（３）第３のテーマの検討

事務局：中原区区民会議運営部会要領（以下、「要領」という。）第５条第２項に基づき、委員の過半数の出席により会議は成立している。本日の配布資料は、資料１「課題調査部会審議内容のまとめ」資料２－１から２－４「課題調査部会個別審議内容」資料３－１から３－４「第３期区民会議テーマ（課題）アンケート集計（平成２２年７月実施）」資料４「第３期中原区区民会議のスケジュール及び審議の流れ」である。

鈴木部会長：会議録確認委員を選任したい。前回は松本委員であったが、今回は板倉委員にお願いしたい（委員承認）。それでは、議題１「課題調査部会からの報告」について課題調査部会部会長の川連委員からお願いしたい。

川連委員：５月１６日に部会を開催し、各委員から前もっていただいた意見を取組の方向としてまとめ、これに基づき区民会議として何ができるかを審議した。資料１及び資料２はその内容を表している。まず、現場の実態調査を必要とし、子育て世代のニーズの把握、活動団体のニーズの把握、各町内会のイベント情報やその広報の方法などをアンケートなどで調査し、調査結果については、活動団体などにも提供するということが提案された。次に、団体同士や個人の連携促進、地域の商店や企業との連携促進を図るということが審議され、様々な場を通じてポスターの掲出やサロンなどの情報提供を行い、既存の取組に区民会議委員も参加し、様々な主体との連携体制づくりを行い、取組の拡充が進められればということが提案された。さらに、子育て世代の集会やイベントへの参加、多様な世代や多主体の交流の場の提供について審議され、学校との連携、老人のいこいの家との連携、多世代間の交流・父親の子育ての参加・親子の交流に向けての場、

イベントの活用や実施、就学世代の子どもと地域の関わりづくりが提案され、その中で、フリースペースの場として区役所のウッドデッキの活用も挙げられた。そのほかの提案として、あいさつや声かけ、スローガンの作成、子どもの安全・安心の取組を活用した地域との交流、専門家を目指した人のボランティア体験による人材確保などがあった。資料２に「実行可能性と課題」として、今後詰めなくてはならない事項を示した。

鈴木部会長：課題調整部会からは、アンケート調査による実態調査、既存の取組への関わり、多世代間の交流。その中で交流の方法の１つとして区のウッドデッキの活用。以上の提案があった。本会議に向けてどのように諮っていくか１つ１つ検討していきたい。まず、実態調査についてはどうか。区民会議として防災に関しては、アンケートを行ったことがあるが、子育てについて調査したことはなく、各サロンなどでも特別にアンケートを行っていない。実態調査は本当に必要なのか、アンケートを何に活用したいか、聞きたいこと、その実施方法など論議すべき点は多い。

松本委員：以前にサロンの一部で「サロンはどうでした」といった内容で実施したことがある。もう少し子育ての悩みなど核心に触れるような調査があったらいい。

川連委員：子育てサロンに参加した。困ったときの連絡場所の表示もあってもいい。

板倉委員:子育て関係ではないが、まちづくり委員会でもイベントを通じてアンケートを行ったが、３年間で集まったのが５０件だった。アンケートを集めるのも大変である。アンケートに書けないことを聞き出す方法としてワークショップもあるが、アンケート以外の方法はないか。また、以前、区民会議において老人による子育て支援についての意見があったが、子供たちの面倒をみるとしても、子育ての経験のある人、もしくは相応の資格がある人が必要。特に資格を求めるのは若い母親に多い。

鈴木部会長：育メンでなく、定年退職後、働いている人のために自宅で子供たちの世話をする育ジイがある。

杉野委員：アンケートは答えやすいことが必要。また、併せて区民会議も知ってもらう。区民会議委員が子育てサロンなどを回りアンケートを行う。

鈴木部会長：既存の子育て施設では利用者が固定しており、幅広い意見を集めることはできない。不特定多数の人を対象にするためにポリオなどの受診に来ている人などに実施する。アンケートの内容については、事務局と調整し本会議に提案していきたい。次に、既存の取組への区民会議の関わりについてですが、いかがですか。事務局として何か委員から受けていますか。

事務局：資料２-１のＢ「区民会議の委員がサロンに出向きお手伝いをする」、資料２－２のＦ－１「子育てサロンへの小中高生の参加を促す」、Ｆ－２「老人いこいの家に保育園児を招くなど、サロンを開催し参加してもらう」、資料２-３のＦ－４「パパサロンの開設に向けて区民会議を通して関係機関に働きかける」などの提案があり、区民会議委員が何かしら関わることでそのネットワークを活かしながら人や場づくりなどに協力してもらう。

川連委員：中原区の商店街でも「親子そろってパフェ作り」を行うが、場所が狭く１０人ぐらいしか入れない。市民館などを活用すればもっと多くの人が参加できるが、商店街を知ってもらうという趣旨から外れる。とにかく場所がない。

杉野委員：８月１７日に中原中学校の生徒５０人ぐらいと子育てサロンに参加している３０組ぐらいの親子が交流している。この交流は一部の所でしかできていないため、区民会議が参加することで他の所にも波及が可能である。

鈴木部会長：学校との連携として区民会議が橋渡し的な役割を担うこと、その方法について議論をお願いしたい。

松本委員：学校との連携は時期的なものがある。今は夏休みに行っているが、平日の参加はカリキュラムの関係もあり難しい。また、学校単位で行っており、個人でも、社会福祉協議会に申し込みがあった生徒を受け入れている。したがって、個人をそのまま参加させることはしていない。拡充を図るのであれば組織的に進める必要がある。

杉野委員：やっていることを知らせることも必要。

鈴木部会長：地域教育会議に働きかけるのもいいのではないか。

松本委員：地域の民生委員・児童委員が中心となって実現したもので、地域教育会議に働きかけたわけではない。「地域における子育て応援体制づくり」として区民会議が呼びかけるのは可能。また、区民会議の周知として、色々な地域の子育てサロンに区民会議委員が出かけていくのもいいのでは。また、ウッドデッキを活用しアピールするのも方法の１つ。

鈴木部会長：区民会議委員が自ら課題解決に取り組み、行動し働きかけていくことは問題ないと考える。いろいろな場所で区民会議として「地域における子育て応援体制づくり」について考えを話すこともいいのでは。今後事務局と詰めていきたい。

鈴木部会長：次に、「地域における子育て応援体制づくり」として多世代間の交流について、区民会議としてできることについて議論したい。参考資料として反町委員からウッドデッキの活用について提案されている。子育て世代との交流や情報交換の場として新たなコミュニティの形成を目的に、区の定期健診等に合わせて親と子が馴染めるコンサートや楽しみながらくつろげるカフェを設置し、情報提供の場として活用していくとしている。

川連委員：絶対やったほうがいい。自分達も商店街でやりたいのだが、いろいろと規制が厳しくなっている。商店街でもこの場所を使ってやってみたい。

鈴木部会長：反町委員には本会議でこの提案を話してもらうことにする。

板倉委員：中原区民交流センターの団体も活用できるのではないか。

鈴木部会長：本会議に向けて、アンケートの実施、区民会議委員が色々な集まりに出かけ子育て応援体制づくりについて話す、区のウッドデッキを活用して多世代間の交流を図る。以上を諮っていく。まずは反町委員の提案を実現したい。また、中原区民交流センターにも声かけを行う。次の議題である第３のテーマの検討に移りたい。第１と２のテーマについては資料３の委員のアンケートから意見の多かったものを取り上げた。今回はどのようなテーマを審議していくか意見をいただきたい。

杉野委員：来年区制４０周年だが、区民会議として何かを行ってもいいのでは。

川連委員：区は４０周年として写真集の発行を予定している。４０周年として区民会議をもっとアピールすべきでは。

鈴木部会長：区制４０周年として、区民報告会にシンポジュウムや区民会議委員のネットワークを活用し企画などを行いながら区民会議の振り返りとこれからの区について考えていければと思う。本会議には、第３のテーマとして区制４０周年を提案していきたい。以上で運営部会を終了する。